不戦の誓いを表現した慰霊塔より～平和の尊さを次世代へ～

この慰霊塔は、全国戦災都市の太平洋戦争における本土空爆により亡くなられた民間人犠牲者51万人余の方々を供養しています。

空爆犠牲者は、戦没軍人軍属やその遺族等と異なり、政府の敬弔慰藉の対象外であったので、姫路市戦後初代の石見元秀市長が「同じ戦争での死でも、軍人は手厚くまつられ、遺族への補償もあるのに、民間人にはなにもない。」という思いから慰霊塔の建設を提唱されました。

そして「全国戦災都市連盟」（戦災復興事業都市として国の指定を受けた全113都市（当時）が加盟）の決議に基づき、全国からの浄財を財源にして、昭和31年10月26日、同連盟発祥の地であった姫路市に建立（総工費8,000万円）されました。

塔の形は、武器のシンボルである剣を地中に突き刺した形で「もう戦争はしない・戦争という名の剣は、二度と抜かない」という未来に向けた不戦の誓いを表現しています。

戦災からの復興と平和を願う全国民の切なる願いが結実したものであり、全国の空爆犠牲者を慰霊し世界の恒久平和を祈念する日本唯一の施設です。

現在の平和な社会と繁栄の裏には、戦災で亡くなられた方々の尊い犠牲があったことと戦後復興を担った先人の血のにじむような努力に対する感謝の気持ちを忘れることのないよう、平和の鐘を鳴らし続けています。

側柱に刻まれた被災記録

■規模・構造

高さ	26.75m
構造	鉄筋コンクリート造で外部は花こう石貼
前垂	約280m²で日本地図が刻まれ、加盟都市を象嵌で表示している。
側柱	113都市の被災記録（被爆年月日、死没者数、罹災人口）と復興担当市長名が刻んであります。
設計者	高谷　隆太郎（151点の公募作品から選定）

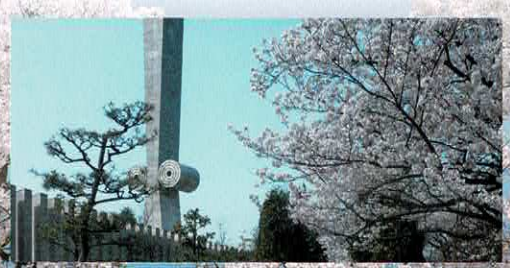
■開園時間

公園内にあるため、自由に参拝できます。

全国より恒久平和を願い姫路に集う

追悼平和祈念式

慰霊塔が竣工した10月26日を式日と定め、毎年、慰霊塔前において戦災により亡くなられた全国の空爆犠牲者を追悼するとともに、世界の恒久平和を祈念するため、各戦災都市の遺族をはじめ、全国各地の皆様の参列により「太平洋戦全国空爆犠牲者追悼平和祈念式」を開催しています。



桜の花に包まれるふれあいの丘より、春の慰霊塔